

オリーブの樹

第121号

2014年1月12日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



陽
向
き
咲
く

輪のツノポ
頭上げ

初相の
獄庭に

目次

- P 2 11月12月の歌 重信房子
- P 3 元旦誌面インタビュー 重信房子
- P 5 独居より 重信房子
- P15 読んだ本 重信房子
- P17 日々雑感—5 萩尾遠
- P18 アラブ物語25 「パリ事件」ハーグ闘争から日本赤軍結成へ—74年(3) 重信房子

重信房子さんを支える会

十一月十二月の歌

重信 房子

海超えて屋く便りの終わりにはいつも「YOURS IN REVOLUTION」
 一斉に風に戦^{そよ}げばえのころ草穂波豊かに光る立冬
 木枯らしの激しさに耐え細き枝熟れゆく赤い実守りて立ちぬ
 冬の湖たゆとう波に月光る異郷のようなふるさとに在り
 囚徒らのソプラノ合唱獄舎出で紅葉の梢へ空へと屋く
 忘れがたき浮世を辿る魂か精霊蜻蛉が冬の陽に舞う
 寒に耐え怒りと抗議と願い込めヒューマンチェーン国会囲む
 戦火止まず家も家族も奪われアラブの大地雪降り積もる
 喪^{とき}った時間を惜しみつ残り年数えつ夢追う十二月尽

友人たちのお便りで質問や感想を求められている諸点にお答えしたいと、「エアインタビュー」を試みました。ご覧ください。

元旦誌面インタビュー

★★★体調はどうですか？ 移監は近いのですか？★★★

「靖国参拜」には、安倍首相の「とりもどしたい日本」の思惑がよくあらわれていました。あちこちと緊張をこれからも高めそうですね。

2008年末ガン発見、09年2月の手術以来、大腸4ヶ所、小腸3ヶ所、子宮と何度もガンを摘出して何度も命を拾いました。抗ガン剤治療も45ヶ月続きました。おかげさまで、去年最後の12月の腫瘍マーカーチェックでは正常値の範囲に収まっています。去年はお盆過ぎに主治医も移監を考えられたようでしたが、最後の8月末の血液検査で腫瘍マーカーが異常値を示したために再検査を行うことになりました。CT、MRI、エコーなど検査しましたが異常は見つかりませんでした。もともと、それらの検査は、腫瘍が1センチくらいに大きくならないと発見はむずかしいようです。その後腫瘍マーカーは高止まりしながら正常値ストレスレ

範囲にとどまって現在に至っています。

主治医は、今のところ心配ないと判断しています。

去年2013の4月に大腸の1センチの平坦なポリープを摘出し生体検査したところガンでしたが、その時の腫瘍マーカーは正常範囲を示していました。つまり初期ガンは腫瘍マーカーでは正常のまま1センチとなり、内視鏡の目視によって摘出し細胞検査ではじめてガンとわかったわけですね。そうした体験と何回もガンが発見される体質ゆえ再発は覚悟しています。それでも「正常値」が続けば移監になります。血液検査、内視鏡検査ができて、早期ガン発見の可能な八王子に居られる今の状態が私にとっては望ましいのですが……。そんなわけで、「ガン第二章」はあいまい状態ですが、今の体調を維持し、早期発見をめざし、自分らしく過ごすかと心しています。

★★★2014年の日本や中東の行方をどう思いますか？★★★

テーマが大きすぎ紙幅は小さく答えにくいのですが、日本も中東も「人権・民権の危機の年」になるだろうと危惧しています（「人権」「民権」は広辞苑の意味のように使っています。スペース不足で省略）。

安倍首相は「戦後レジームの脱却」がどんなものか、去年あからさまに示しました。戦前を否定しない彼の「日本をとりもどす」とは「モダナイズされた国家主義」でした。「民権」よりも「国権」。「秘密法」、「共謀罪」などで市民運動、メディアを締めつけ、反対意見を封じ、在任中に「集団自衛権の行使」や「改憲」へと突き進みそう。みなさんの方が政治的にも実践的にも深く理解している通りです。

中東においては、エジプト、シリアばかりか各地で「人権」「民権」が、これまで以上に脅かされる年になりそうです。

2011年、アラブの民衆の要求は、人間としての尊厳・「人権」・「民権」を求めたものでした。あの要求は今年は厳しい弾圧に晒されつつ闘い継がれるでしょう。「アラブの春」とほめそやした米欧は、彼らにとって「やっかい」なカダフィ政権を直接暴力で殺し粉砕し

ました。でもイラク侵略戦争の時と同様に、「オリエンタリズム」の自分たちの都合に合わせた思惑の介入は、またも立ち往生を余儀なくされました。リビアでは米領事が殺され、そのあとも混乱は拡大し続けているし、シリアは外部勢力の介入によって、武器と金の流入で反体制勢力は分裂対立をくり返し、今ではアルカイダ勢力優位は誰でも知っています。エジプトでは「軍事クーデター」にあわてたのが米欧の姿でした。軍事クーデターを批判し、「対エジプト支援見直し制裁」も、イスラエルの「軍政支持」サウジの「軍政援助」で、なし崩しに米欧は軍政に合法性を与えています。シリア「化学兵器使用疑惑」でもオバマ政権は迷走しつつ賢明にも踏み止まり、愚かな軍事介入は避けることができましたが、中東政策は壊れています。

こうした中、エジプトではムバラク時代よりもひどい弾圧が去年始まっています。ムルシ元大統領派逮捕殺害ばかりか、デモ・集会の非合法化・許可制に抗議したリベラル・左派の若者たちも逮捕弾圧に晒されてきました。かつてクリントン国務長官ら西欧の政府や識者らは「アラブの春」の非暴力の勝利はアルカイダ



勢力を駆逐する」と論じていましたが、皮肉なものです。今では非暴力の抗議に襲いかかる権力の暴力を許しているのです。今エジプトの民衆の間にも強いインテリゲンチヤがあります。非暴力抵抗運動はそれでも意味があるのか？と。人間の尊厳を求める闘いは軍政と協調すべきなのか？軍政の打倒をひきつづきめざすのか？ことにエジプト軍政に合法性を与えたのは、「人権」・「民権」を主張してきた知識人であり、エジプトの中産階級の人々です。そしてムルシ派を支えているのは最貧層の人々です。今年は軍政は法的装いを整えて、

★★★そういうことをふまえて、今年の中東の動向についてはどう見ているか？★★★

今年には政治攻防において、中東は大きく焦点になりそうです。私や私のかつての仲間たちは、パレスチナ問題が「中東問題解決の要」、つまり「イスラエルのパレスチナ占領問題」の解決を求め連帯してきたし、それは今後も変わらない、そうだと考えています。しかし、今の中東問題の動向を分析する意味では、「パレスチナ問題」が全体を規定する位置にないのが現実です。

今年の中東の動向を見るうえで、中東の「親米政権」に私は注目します。イスラエル、サウジアラビア、カタール、ヨルダンといった国々の動向です。何故なら、米欧勢力は去年までの迷走の教訓から、中東のさまざまな問題を「国際的な政治的枠組」において解決しようとまず試みるからです。それがうまくいかば、こうした「親米勢力」とアルカイダ系の各地の武装勢力の動向に左右されざるをえません。米欧が「政治的枠組」を求めるのは、カダフィを打倒した時のような「有志連合」の軍事力では解決収拾がつかなくなっていることを自覚しているからでしょう。

また中東においては、ソ連時代からのロシアの影響力があなどれないことを思い出したのでしょうか。「イラン問題」も「イランの変化」よりも「米欧のアプローチの変化」が大きいのです。また「シリア問題」はロシアイニシアチブに沿って「ジュネーブ2」の会合が1月開催をめざし、「イラン問題」でもイランを含む7ヶ国合意が去年11月に成立しました。もちろん「シリア問題」は会議が開かれても、アルカイダ勢力を含む反体制派を政治的枠組に押しとどめることは当然できないし、「イラン合意」も5月末に試しの6ヶ月期間が残り、次が問われます。

こうした政治攻防の枠組を激しく反発批判しているのは、米政権ともっとも親しいイスラエルであり、サウジアラビアです。イスラエルは「歴史的誤り」と「イラン合意」を非難し、ぶちこわすさまざまな軍事、

刃向かう勢力をさらに「合法的」に弾圧するでしょう。こうした軍政に「人権」・「民権」の危機は深まり、北アフリカ・中東の統治権力にも影響を与えずにはおかないでしょう。

そうした新年、それでも「人権」「民権」を奪うことのできない権利として、味方の側、民衆の側が、今のために未来を犠牲にすることなく、また未来のために今を犠牲にすることなく、どう戦略的・戦術的に闘うかが問われていると思います。

謀略的な手を使うでしょう。サウジアラビアは「シリア問題」を不満として去年は「安保入り」を辞退し、またイランを第一の敵としてきたので、危機感を持って対抗策を講じるでしょう。シリア反体制派を金と武器で操るサウジやカタールは、反シリア、反イランの行動も予想されます。こうした「親米政権」の動向は全体に作用する位置にあります。イスラエル・サウジアラビアが、「対立」の建前の袖の下で結び合っているという報道もあるし（イスラエルがイラン空爆時、サウジ領空使用を合意したという）、それはありうるでしょう。

中東の親米政権は、今のところ米欧の政治的枠組に反対していても、自分たちに利益があれば突然に賛成したり、独自にイニシアチブをもって、敵視勢力と和解しようとするかもしれません。米政府と最後まで対立することはありえないのですが、いろいろと謀略的に動きそうです。

中東の歴史を規定してきた3要素、第一にイスラエルの占領問題、第二にアラブ民族主義（反植民地主義、その系譜にエジプト軍政もある）、第三に宗教（イラン革命をはじめとする宗教の政治化）は、今も政治攻防を左右します。サウジから巨額の支援を受けたエジプト軍政もまた連動するでしょう。親米政権の動きに注目し、民衆の人権、民権を獲得する闘いを支援連帯したいと思います。

【中東資料などありがとうございます。資料アップデート 12/7 によると、シリアの反体制派はさらに分裂をくり返し武力衝突しています。在シリア米大使ロバート・フォードはイスタンブールに行って、「シリア国民連合」や「シリア国民評議会」ら反体制派に「ジュネーブ2」（和平会議。1月22日開催予定）に出席し、「政治的解決を行う以外の選択肢は存在しない」とオルグ説得に必死。「国民連合」を西欧はポストアサド政

権と捉えつつも、傘下の「国民評議会」をも個別にオルグしないとまとまらないし、「自由シリア軍」は分裂し「イスラム戦線」を結成し、「自由シリア軍」との武力衝突が12月7日公になっているとのこと。他にアルカイダ系といわれる「ヌスラ戦線」なども「ジュネ

★★★日本の中東政策について、どう思いますか？★★★

安倍首相は自らトップセールスに走り、トルコや湾岸諸国に原発輸出、さらにトルコとは武器の共同開発を企てています。「戦後レジームからの脱却」の重要なテーマである米国との従属的同盟関係から独自の権益をはりめぐらせるべく、ロシア、東南アジア、中東諸国などに政治・経済力確保を試みています。アラブ政策としては去年12月の「日本・アラブ経済フォーラム」に示されるように「ビジネス優先・民主化切りすべし」の道を進みました。安倍政権になって、露骨にも

★★★これからのこと、今年のテーマは？★★★

夢想はいっぱいですが、できることは限られています。去年は『革命の季節』も読んでいただいたし、「オリーブの樹」を通してみなさんとの交流も広がりました。今年も新年の新しい場や条件の中で、みなさんの生活、脱原発や反戦の実践、国際連帯を学ぶ中から、

「政治解決」に踏み出す反体制派は少ないようです。煽動するだけ外部から煽動しておいて、収拾つかなくなっているのがアメリカ（イスラエル）やアラブ王制の動き。【編集室註：関連するので「独居より」の12月17日の文を移入】

「国優先」の中東政策が強まっているようです。民衆が「民主・自由・パン」を求めている時、それをどう支援するのか、欧州の「人権」重視の国々との違いが今年も目立つでしょう。中東においては「難民」の受け入れや現地のNGOを主体とする支援がますます問われています。また日本の憲法に基づいた外交をアジア・アラブの人々は求めているのですが、安倍政権では、反対に強権的な姿が作用し、隣国とも緊張しそうです。

できることは少しでも挑戦したい。みなさんからの「再会まで生き抜くように！」との励ましの言葉を糧に、好奇心で前向きに進みます。みなさんも健康でいてください。

独居より 11月6日～2014年1月6

今年もまたどうぞよろしく。(元旦)

重信 房子

11月6日 快晴。10時半から11時グラウンドへ。もうすっかり晩秋。桜並木がレンガ色に染まっています。それでもクローバーがところどころ花を付け、しじみ蝶がふわふわと飛んでいます。グラウンドの運動は医師が許可した患者十人弱と補助作業をする懲役囚の人がいつものメンバーです。

午後、主治医の診察とCVポートのフラッシュ。体調は変わらないことを伝えてDr.に質問。「腫瘍マーカーは5.0以下の正常値の範囲ながら、4.7とか4.5とか高めなので、CVポート抜去の前に抗ガン剤で腫瘍マーカー数値を下げるのはどうでしょうか」。Dr.は「手術の後で腫瘍マーカーが下がったが、去年補助治療としてゼロックス療法3クールやったように、そうしたやり方はありえる。しかし現在のケースは事情が異なるので、抗ガン剤を使うより様子を見た方が良い。またCVポートの抜去もその必要時また考えましょう」。

11月7日 立冬！今日は午後からコンサート。「早稲田桜子音楽教室この指とまれ」。昼食を早めにくりあげて13時半～15時くらいまで。桜子さんのバイオリンと姉の真理さんのピアノ伴奏。バイオリンで「アメージング・グレース」など4曲、それからトルストイ作「三びきのくま」の絵本をスライド映像にして企画首席が朗読（声がいいと評判）する中、バイオリンをピアノのBG。最後は丘巻のチゴイネルワイゼン、父の好きだった曲。アンコールで静かにアベマリア、さらにアンコールで手拍子の歌。あつという間の終了です。コンサート最後の演奏チゴイネルワイゼン

父の愛した曲胸を衝く

房に戻って、処遇課より告知。「Yさんよりの手紙の中の一部に、不適切な表記があります。抹消の上交付します」とのこと。夕方他の手紙類と一緒に受け取れました。開いてみると、浴田さんのことを書いた文のセンテンスの一部が消してありました。10月31

オリーブの樹 第21号

日に発信してくれたようですが検閲で1週間遅れでした。カルロスからのパースディカード、ずいぶん遅れましたが受け取りました。

11月8日 稲架続く草窓の秋にしみじみと

帰国した吾の新しいあの日

逮捕記念日。あの日のような秋晴れ。被害、迷惑をあれこれかけてしまった方々へ謝罪。

そしてまたあの時からずっと励まし支えてくださっているみなさんにお礼を心から伝えます。

あの日の衝撃、くやしき、葛藤そして決意へと、ぐっと立ち上がってきた気持ちが今も私の根っこで生きています。“本名にかえて再生し再び闘いたい。みんなの役に今度こそ立つように。初心にかえて勉強し直そう!”。あの時の決意と頭をもたげた向上心は、今も果たせず心情にとどまったままながら……。反省を込めて再び自分を叱咤しております。

ちょうどそんな日、旧友からの懐かしいお便りとその歩んでこられた厳しい道に胸がふるえてしまいました。先日習ったばかりの言葉ですが、「倒懸」の想いの中「逆縁」も乗り越えようと凛然と前を向いて生きる誠実なあなたの姿が浮かびます。どうぞ躊躇わずにお便りで伝えてください。適切なことを言えるわけはありませんが、伝えてくださることによって浄化しあう関係もあります。

「特定秘密保護法案」が審議入りしています。「社会に不安 廃案せよ」と朝日は一面で論議主幹・大野博人が主張しています。公明党が提起して、“報道または取材の自由に十分に配慮する”と加えたことで安倍政権は押し通そうとしています。米国に合わせて集団自衛権、共同武器開発、武器輸出、共同軍事的行動を目指しているとの専門家の言はまったくそのとおり。廃案にできないと取材する大手企業ジャーナリストたちではなく、これまでも問題を告発してきた市民たちが「脱原発」であれ、「反戦反核平和運動」であれターゲットにされそうです。「4分野」(防衛、外交、スパイ活動などの特定有害活動、テロ活動の防止)と言いつつ「などの特定有害活動」を口実に市民の知る権利がおびやかされそう……。

11月11日 昨日大相撲が始まりました。大砂嵐は幕内に昇進しつつ、今日まで2敗。どうかな。

由井さんお便り感謝です。お便りそのまま一首。“庭の花は秀明菊と山茶花に変わりました”と旧友[とも]の文。『ぼくは演員電車で原爆を浴びた』が全国図書館協議会の選定図書に選ばれたとのこと。おめでと

ございます。米澤さんにも祝伝えてください。宮崎先生お便りありがとうございます。Mさん渡辺美佐子の朗読劇「感動の涙でみたしてくださいました」とのこと。私も渡辺美佐子は大好きな役者さんです。信条のしっかりした姿勢がいいですね。その彼の一句。“朗読の舞台女優や秋果つる”もいいですね。旧友からの資料、写真(家族の)写真ありがとうございます!「紙の爆弾」「情況」「創」なども受け取りました、感謝。

11月12日 午前中に姉の面会。面会月2回は大変で先月は一度来てくれましたが前みたいに(2010~11年9月)友人たちの面会が可能になるといいのですが……。家族のことあれこれ、依頼したことなど楽しく話しているうちにもう30分です。

『風景の死滅 増補新版』松田政男著贈呈の本受け取りました。ありがとうございます。「風景=国家を撃て!」の帯の文にあの時代のざわめき、「映画批評」の事務所や「ユニコーン」の喧嘩(喧嘩)やエネルギーをぶつけ合った論争が浮かびます。この本は「シリーズ・革命のアルケオロジー」として、「2010年代の今こそ読まれるべき、読み直されるべき文献」を再度刊行しているものの2番目として刊行されているとのこと。1971年頃の松田さんの論集です(感想は「読んだ本」に)。

11月13日 今日の新聞の一面に、“原発「即ゼロ」首相に迫る小泉元首相会見。「決断すればできる」と見出し。被災したフクシマの当事者たちはどんな思いだろう……。プッシュとイラク侵略戦争に歩調を合わせてどんなことをしてきた人かと考えつつ、でも「脱原発即ゼロ」の声は活かしたい。自民党の「再稼働」「原発輸出」を「即ゼロ」に転換させるプラスの力にできないだろうか、市民運動、住民運動の地を這う地道な力を「小泉発言」にとびつくメディアに蹴散らされるのではなく、逆に大きな力とするために。

プリントや「民主文学」など受け取りました。

11月14日 八王子の予想気温はこの間11℃が最高、2℃か3℃が最低です。都心とは3~4℃低い温度差。今日はグラウンド運動に出ると、南天桐の実、ピラカンサの実の赤が冬を示しているようです。足下の芝も枯れはじめました。

夕方、資料や手紙など届きました。「オリーブの樹」120号も交付されました。表紙のあかまんまいいすね。短歌はこれを選んで表紙にしてくれたのですね。カットの絵の字もいい! 毎号こんな風につぶやいて

ください。辻邦さんひさしぶり。「タロウ君の受難」フムフムと興味深く読みました。「日々雑感」萩尾さんの心情溢れる文、相貌を思い返しつつ読んでいます。書いてくださってありがとうございます!

また「救援」紙がひっかかって「検閲中」で交付されませんでした。他の資料、お便りはいただきました。ありがとうございます。

11月15日 寒さいや増す八王子です。私も八王子3年目を終え、4回目の冬を迎えるところです。もう寒さ対策は慣れました。(と言いつつ、すでに左足指にシモヤケ! 12月1日のカイロ使用許可まで、足下が夜の作業中の寒さでいつの間にか11月下旬にシモヤケになってしまうのです。)

日課は(何年か前に書いたけど)起床7:30、掃除・洗面。7:45点呼、朝の願い事(毎日いろいろの申請や問合せを行う)。7:55~朝食、投棄、洗濯物回収。9:00~11:00安静(ベッドで横になる。読書可。この時間帯に30分の運動や15分の週2回の入浴も入る)。12:00から昼食。13:00~15:00安静(この時間診察などもある)。16:40~夕食。17:00点呼。19:00から仮就寝(ベッドに入ること奨励)。就寝21:00です。

昼食、夕食前と17:00の点呼後は丸椅子に座り、枕頭台(食卓にもなり、戸棚引出し付き)で文章作業や学習をします。読書は基本的にベッド上に居る時、新聞読み合めて行い、起きていて良い時間は作業に当てています。本は官本が2週間1回5冊まで借りられますがほぼ読んでしまったもので、送ってもらう本も早々と読んでしまいます。時々購入しますが2ヶ月後に届きます。働いている友人たちに較べると申し訳ない生活と睡眠量ですが、もちろん“快適”というわけではありません。

11月18日 午後、主治医診察。11月13日の採血検査結果。「腫瘍マーカーは今回も微妙なところでCEA4.9でしたよ。CA19-9とAFPの腫瘍マーカーは正常範囲でしたが……。PIVKAというチェックマーカーも32で高かった」とのことでした。抗ガン剤を使うまでではないが、また1ヶ月後に採血して様子をみることになりました。

「パレスチナに愛を」の資料、アラファトに対する暗殺(ポリニウムによる)疑惑の記事と、10月11月の私の短歌をブログに載せたプリントを送ってくださってありがとうございます! 資料ありがたいです。シリア関連のデータもありがとう。

11月19日 夕方「救援」525号がやっと届きました。同施設におられる人に関する記述の一部抹消(名前など)されたものです。

Kさん鮮やかな詩仙堂の写真、大きい分しつとりと静寂が届きます。私も詩仙堂、逮捕される前の秋、紅葉したこの庭をじっくり見つめましたよ。京都で彼と始まった愛、大学や好きだった場所を歩んでいる心がお便りから伝わります。句会のこの一句もいいですね。“秋深い静寂にたたずむ一人花”。

11月21日 快晴。冬晴れが続きますが、新聞を広げる度に思わずため息がこぼれるこの頃の秘密保護法案をめぐる与党野党(みんな、維新の会)の動きです。

「冬の時代」でなければ、不要だったものを(「冬の時代」が有っていいとも、また冬の時代に秘密保護法案のこんな広範囲、あいまい、重刑があつていいとも言っているわけではありません。念のため)、火急に持ち出し、米国機関の国際法人権も逸脱が証明されている今に、こうした法案を採決しようとする与野党勢力に空恐ろしささえ感じます。米・イスラエルの数えきれない謀略、暗殺、非合法行為に立ち向かっていた地下戦争の時代を現認してきた一人として、恣意的な秘密・謀略が、支配者の安全のために編み出される日本を思います。すでに昔から行われてきたことを合法化する魂胆と言えそうですけど……。

昨日から毛布一枚増(計3枚)、毛布膝掛け・手袋使用許可になりました。でも手袋は60円と安い分、軍手のようにちっとも暖かくないのですが、これ以外不可です……。

「フォーリン・アフェアーズ・レポート」、原発関連資料や「田中宇資料」など受け取りました。「合成生物学のポテンシャルとリスク」は「人類社会への大いなる貢献か、それとも悪夢か」と、バイオテクノロジー産業が、新たな生命体(合成生命体)を創り出している現情と、それが進化していく「デュアルユース」(人類の救いという側面と人類社会を滅ぼす恐れ)のジレンマを伝えています。また「インターネットでデータ化される世界」など“最大級”のテクノロジーが、人間生活にとって様式も存在も変えていくだろうということが読み取れる論文が今月は中心です。興味深く、自分が彼岸に去ったあとの人間生活を想像して読んでいます。

M子さん、お便りありがとうございます! 秘密保護法案の動向と批判、アベノミクス批判、アベ政権批判、まったくその通り! また11月19日の「オリーブの会」のパレスチナ援農報告会の様子伝えてくれてありがとう。

オリーブの嶺 第21号

「援農でも海外支援者もイスラエル兵によって殺されたり、負傷したりしていますから、海外からのこうした支援者といってもかなり危険な目に会うようです」とのこと。そう、米国人の若いレイチェル・コリーが戦車に引き殺されたのを思い出します。交流会のおいしそうな写真もありがとう！ごちそうさま！Dっちゃんのメールもありがとう！Dっちゃんによるしくね。デジカメ歌人、立冬の紅葉黄葉落葉が写真一枚に。そしてこんな一言がいい。「角々の監視カメラに横たわる私の裸が曝されており」。ホント監視社会です。

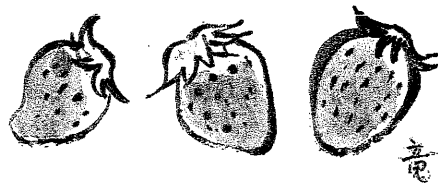
11月22日 今日は「教育的処遇日」のため休業で休日のような一日。でも入浴の後に、「写真とります！」とのこと。「エッ？写真」「入所して長いので撮り直しをします」とのこと、4枚（正面と左横顔、メガネ有り無し）撮られました。

新聞を開けると、「廃案求めてデモ行進」の社会面の記事。国民の不安、戸惑いを無視し、スイスイと法案を急ぐ安倍政権に無力感で立ち止まることなく、果敢に抗議を続ける人々に勇気づけられます。日比谷野音にも1万人の人が寒い中集りデモ行進を行ったとの記事。一人一人が行動し、脱原発と同じ勢いで廃案へ！と祈るばかりです。「来週には成立」という国会には憤りつつ……。

11月24日 今日相撲の千秋楽。大砂嵐は負け越しました。でも21歳で若く、技もこれからでしょう。きっと躍進するでしょうね。

11月25日 午後はコーラス。81歳の先生はいつも「地声で歌わないこと！女と生まれたからには必ず出るんです。ソプラノの声で」とおしゃやいます。先生の朗々のソプラノの美声の指導に、たじたじの私たちも声をはりあげて歌います。新しく「空がこんなに青いのは」（岩谷時子詞）と「夕日」と「花は咲く」。ああ楽しいと終わりました。

資料などもありがとう。「情報センター通信」、いつも天皇制問題、皇室ニュース情報と批判など、手に入りやすい情報を伝えてくれます。他に中東資料、人民新聞、「壮快」も感謝。



今日の記事は「イランと六ヶ国の合意」がトップ記事。イスラエル・ネタニヤフ首相は「歴史的合意ではなく、歴史的誤り」と批判とか。中東非核化安定化の最大の妨害はイスラエルの核保有であり、それ抜きにイラン問題もシリア問題も解決しないのに。

11月26日 午前に衆院特別委で特定秘密保護法案を強行採決し、夜にはあつという間に衆議院本会議を通過したとのラジオのニュース。昨25日に福島で市民を閉め出して「公聴会」を開き、全陳述者が反対したはずだが、ただの「審議した」というアリバイづくりに利用しただけ。これから問題点を審議するレベルの内容のあいまいのまま、権力の恣意で何でもありになりそうです。独善・独裁の安倍政権の本性がはっきりしている事態です。

Kさん版画絵の花札をいかした2014年カレンダーありがとうございます。カレンダーとしては房内所持できませんが、じっくり拝見しました。あとは宅下げして、カレンダーのこころを切り取るか、使ってから切り取って、また「パンフ扱い」として送ってもらいます。それにしても多忙の中、みごとな作品ありがとうございます。Kさん、この実何の実でしたか、実際に見たのに思い出せない……。かわいい小さなピー玉みたいなスイカ模様。結婚記念日祝。旧友たちの夫への墓参はどんなに心を暖められておられることでしょう。Mもありがとう！もう下の娘の七五三。写真はびっくりするほどの美形です。

11月27日 新聞は昨日の秘密保護法の批判記事が一面から広く伝えています。前から、また夜の強行採決も国会の前で抗議する人たち。各団体の抗議声明。国民に内容が浸透する前の強権的な採決には誰も怒りを感じているのが伝わります。ため息が出てしまいます。

11月28日 南は朝焼け。雲の多かった空が10時半のグラウンド運動時間には雲一つない青空に。陽も差して赤とんぼが2匹すいすいと飛んでいるのは驚き。あたたかく、カーディガンを脱いで走ったり柔軟体操。真向法で寝転がる空はいつもマッチ棒のようなキラキラ光る飛行機が何機も通過します。横田基地のためでしょう。ヘリコプターも。もうほとんどの樹は落葉。でも今日は小春日和で、タンポポの花も一つ！

今日は日用品や冬物下着など購入品が届きました。雑誌も切手も新聞代も。今日はすごい出費でした……。お便りを楽しんでいます。送っていただいたI子さ

んからの馬場あき子編『花のうた紀行』をまた読んでいますが、ちょうど今季節から始まる歌の数々に感応・共振し味わっています。そうだ、庭のカエデがレンガ色の先週から今日は燃える紅でした。この歌紀行の一首にもこんなのがあります。「紅葉のあかきに堪へず狂ひゆく風も地の面[も]も古[ふ]りしこの身も」藤井常世。

グラウンドへと行進しながら、紅を見てこの歌を思い出しました。このごろ歌心が枯渇している感じの私です。

11月29日 今日は姉二人の面会。家族の話、甥たちの話に笑ったり頼んでいたこと伝えてくれているうちに「時間です」との声。寒い中ありがとう！もう11月も終りで師走の各家庭は大忙しとのこと。何も手伝えぬ私です。でも病院で年越しなのは私にとってはありがたいこと。寒さなんのその八王子です。

エジプトのカイロでは、この間、反軍政集会が続いています。デモ規制法（デモや集会の開催に警察の事前許可など）に反対した26日のデモで若者たちを拘束。「反ムバラク」「反ムルシ政権」で活発に活動していた「4月1日運動」代表アフマド・マヘルにも逮捕状とのこと。軍政をいったん既成事実としてしまうとこうすることは目に見えていました……。27日には1万人をこえる「軍政打倒」のデモ。ムルシ派と若者を段階的に制圧してくる軍政に、再び民衆の側が統一して進むことができるでしょうか。かなり厳しいですが教訓をいかして持続して闘ってほしいところです。

Tさんは小浜で平和ピアニストの池辺さんと「九条の会」のツアーで、中野哲演さんの法話を聴く会に参加中のお便り。「法話聞けば小浜静かにしぐれけり」。今日の私の一首は

面会に急ぐ廊下の窓の外幸の印か賞冬警微咲く。

12月1日 昨日は11月尽。課題を決めているのですが、手許にある葉室麟などの面白い読書に脱線して週末を過ごしています。今日からスチーム入るかかと期待しましたが入りません。そんなに寒くはないためでしょう。でもカイロの解禁。さっそくシモヤケの足を温めています。

新聞ではエジプトで逮捕状の出ていた若者は急襲逮捕され、「4月6日運動」のリーダー、マクマド・マヘルは自ら出頭したとのこと。「合法性」を乗っ取った軍政が、ムルシ派ら同胞団に続いて、若者やリベラルや左派を「犯罪者」に仕立て上げています。そうである以上、自ら出頭して正当性を主張しようと考えたのか

もしれません。「合法性」を奪われると斗いにくいし、一方的な犯罪者キャンペーンにさらされますから。自らの私たちの教訓としても……。

11月2日 快晴の朝、霜がキラキラ光っています。今朝初めてスチームが入りました。7:15~8:00と15:45~16:45とのことですが、晴天のためか朝だけ。むきだしコンクリートの房内は陽の当たる外よりも寒い……。12月、何か根拠なく、がんばろう！と気分は前向き。ベランダのプランターの寄せ植えの花は今も千日紅だけしっかりと花咲いています。放送では「スチーム暖房で電気・燃料費が払えない場合、暖房を見直すので節水などに心がけ、自分だけなら」と考えず、きちんと節水を心がけてください」とのこと。予算厳しいのか、当面まだ寒寒ではないと、朝スチームだけでもいいかもしれません。ちょうど視察委員会の「子安町通信」が点呼後配布されました。去年取ったアンケートの報告 ①入所してどの位か？1年以内患者76.9%、1~3年18.7%、3年以上4.4% ②治療に満足か？満足40.7%、不満足49.5%。不満理由は看護士が冷たくやさしくない。医師と看護士の言うことちがうなど ③医療に対する意見として「病気や薬及び副作用の説明がほしい」「医師や看護士のアドバイスほしい」というのもあれば、「医療に対して説明も家族面談にも積極的」【これは私が書いたものです】

お便り、本、カイロ差し入れもありがとうございます。Tさんも身体暖める漢方で改善中ですってね。Uクンは腎は大丈夫？

12月3日 快晴続きです。起床時の一面を覆う霜は太陽の登場で瞬く間に失せていきます。この間、秘密保護法案は続々と各分野から反対の意思表示が続きます。科学者や映画人も。その分国民に浸透しないうちに、国民や反対を無視して強行採決を急いでいます。岸を範とする安倍は「強行採決したもの勝ち」の60年安保に倣って、今国会会期中の押し切りを着々と実行中です。石破発言にみられるように、「大音響」も「テロ」と言いくるめ、自分たち権力者の意に沿わないものにはなんでもありの法律なのです。民主党への失望の反動で、衆参選で自民党の躍進を招いた現実の厳しさ。10年先を見越して反自民の野党再生を市民の下からの力で育ててほしいと思うばかりです。

『三島由紀夫と全共闘の時代』その他資料ありがとうございます。

S介さん、弟さんを亡くしたとのこと欠礼のお便り。ご愁傷様です。若い64歳とのこと。S介さんも

健康で再会を。デジカメ歌人小雪のお便り。「長岡神社のイチョウはもう散り始めていましたが、巨木故に見事な姿をみせていました」と、みごとなイチョウの木の写真。「銀杏は鴨脚、公孫樹とも書き、銀杏は実が杏に似ていること。鴨脚は葉が鴨の水かきに似ていて、どちらも中国語の発音が訛ってイチョウになった」とのこと。公孫樹は「公が植え孫の代に実がなる意識から」とのデジカメ歌人のお便りにあります。「鴨脚が降り積む路地の早曉に密かに渡るも蝶が縋ねおり」の一首も印象的です。

12月4日 午後大谷弁護士が面会に来てくださった。今後の治療の見通し、移監や指名医のことなど、30分しか許可されないの、あれもこれも大慌てで話しました。ご多忙のところ今年中に会えて感謝です。また診察、CVポートのフラッシュもあり、体調の確認など。冬になると、やはり血圧が150台に上がってしまいます。カイロで身体を暖めつつ防いでいます。

『中村勘三郎最期の131日』（島崎今日子構成の本）ありがとうございます。闘病の記録なので参考にとのこと。お便りも感謝！

11月6日 夕方、Yさんからの知らせで、12月3日、川口和子弁護士がくも膜下出血で急逝されたと知りました。私自身はお会いしたことはありませんが、西川さんの弁護をされ、ヨルダンまで証言を取りに行ってくださいました。まだ若いはずなのに……。感謝を込めて哀悼の合掌を送ります。

12月7日 届いた新聞を一面に「秘密保護法案が成立」の活字。「知る権利損なう恐れ・本会議賛成、自公のみ」の見出し。同日、各地で反対の集会があったことも載っています。日比谷野音、国会前、地方各地で成立に反対し続けている姿。「今のうちに」と強行していく安倍政権に何とかさらに撤廃にする道はないのでしょうか。それにしても民主党の「あいかわらず」にも人々は無力感を持って当然でしょう。そんな中、反対を持續しつづける人々に敬意を表しつつ連帯。友人たちも集会・デモに駆けつけているのですね。この「特別秘密保護法」成立に並行して、武器輸出原則の禁輸撤廃の新方針を打ち出し、「NSC」でそれを協議するとのこと。歯止めのない「軍事政治大国」を夢想する一部の者たちによって日本が変質していくようです。

今日は「土曜会」の忘年会。旧友たちもデモ・集会

に参加し憤りつつ、来年もどうぞ！と氣勢を上げている頃ですね。私も乾杯を共に！

「秘密法成立」廃止の始まりと服わめ
意志ぶつぶつと濁く
自作の“本歌取り”で一首です。

12月10日 起床したら久しぶりの雨。寒い朝です。でもスチームが入ると短い間でも大分ちがいます。今日は午前・午後入りました。雨のため室内体操。

午後は茶道に参加しました。表千家第十三代家元から免状を受けた先生と十四代から受けた先生の二人が、歩き方、マナーなどを伝えて、先生の点てた抹茶をいただきつつお点前を学びます。そのあと各自自分で点てていただきます。抹茶はとてもおいしく感じました。その間1時間毎月1回。これまで参加してきませんでしたが新年から参加しようかと思いました。

「創」「紙の爆弾」とカレンダー、出版社のPR冊子や雑誌、中東アル・ハヤト紙の日本語訳の資料なども受け取りました。

シリアでは化学兵器など用の砲弾などは来年1月までに処理すべき計画のものが、12月6日に前倒しして破棄され、他の原料などの処理も進んでいるようです。でも、シリア内戦はますます激しさを増している様子。来年1月22日から予定されている「和評会議ジュネーブ」開催が解決の糸口となるのは悲観的という声が現地で渦巻いている様子。シリア内戦に絡んで戦火は拡大し、11月にはレバノン、ペイルートのイラン大使館突入の自爆攻撃で200人近い死傷者も出ているし、反体制派内部の武力衝突も続いています。

エジプトも軍政は暴力を独占し、デモや抗議を「合法」と認めず、「非合法権力」の軍政が市民らを「非合法化」し弾圧。

12月5日に死去したマンデラ元大統領の葬儀に各国から首脳や革命家たちが南アを訪れるというニュース。ネルソン・マンデラの非妥協な不屈の斗争精神と同時に戦略眼を持った寛容さはアパルトヘイトを撤廃させました。そして「一つの国」の民として白人も黒人も新しい「虹の国」造りへと導いた手腕は、当時のアジア、パレスチナ・アラブ、ヨーロッパ、ラテン米の私の友人たちが新しい希望の世紀を読みとったものでした。90年代後半のことです。「9・11」の前のまだ21世紀の希望が語られた、あの頃のことです。

12月11日 今日は快晴でホッ！ 冬の八王子では晴と雨ではぐっと寒さがちがうので、天候は気になります。今日の八王子は最高12℃最低1℃、大手町(東

京駅あたり)は13℃-6℃。都心よりぐっと冷えます。

今日はノート検査。午後はTV観賞(「相棒」でした)。ここでも何かかにかの日常スケジュールがあります。治療の気晴らしに、みな熱心にTV、コーラス、茶道に参加しています。

Tさんより欠札の挨拶状。今年も母上を亡くされていたのですね。ご愁傷様です。「この道は何時か来た道……秘密保護法に反対し続けますが、何か反対する代物が多くなり過ぎて……何処かで反転させたいのですが！ とにかく一人一人をつないでいきます」とあります。本当に。馬力・一人一人の力を結び回天の年に！と新年を描いています。

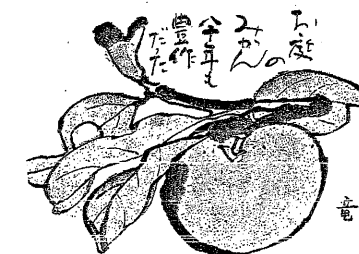
12月12日 師走の多忙と気忙しさが友人たちのお便りの中やお便りが途絶えたことなどにも感じられます。

新聞を開けるたびに、おごった自民党の言動や新しいやり口が紙面を重ねており、「オリンピック開催の為」という口実で、かつてやりたくてもできなかった悪法が次々とやられていくのが怒りと恐ろしい思い。「共謀罪」が、またオリンピックの「安全」や「テロ対策」の名で、市民のデモや表現の自由にこれ以上綱をかけた目論見。石破は「報道抑制」をくり返し発言して国民蔑視の国家主義をあらわにしているし、これからは「オリンピックだ」、「テロ対策だ」と予算を企業優遇、国防軍事へと振り分けることばかりが続くのが目に見えています。これが安倍の「戦後レジームの脱却」です。

「キタコブシ」受け取りましたが、手違いか送った文は載ってませんでした……。将司さんの句集が「日本一行詩大賞」を受賞したことおめでとう、という一文でした。「かりはゆく」受け取りました。「よど号『拉致』逮捕状を撤回させる国賠訴訟」は門前払いとならずすでに3回を終えて継続中とのこと。弁護士をはじめとするみなさんに連帯！ Aさん「泉水国賠通信」ありがとうございます。来週受け取れると思います。

12月13日 安倍政権になって、四度目の死刑執行が行われたとの記事。昨12日、二人国家に殺されました。抗議と共に死刑廃止の国際的基準に沿って日本が変革されますように。そしてそのために闘っている友人たちに連帯！

午後は多忙の中、姉と甥が面会に来てくれました。指名医の先生が12月に定期診察にみえるのをいつにしまらうかなど、遅らせてもらうことを話したりし



ているうちに時間。姉にも12月は多忙でしょうから無理なくいいからね(2回目の面会はあるのですが)と伝えました。

『増補新版 女性死刑囚』(深笛義也著 鹿嶋社)受け取りました。読みながら、ほんの少しの日常生活の不幸、貧しさ、最愛の人を亡くすなどさまざまな重なりの結果、思いもよらぬ「死刑囚」になってしまった人々。著者は「各人の性格」に掃さず、社会や生い立ちの「関係」に焦点を当てて記していますが、重いテーマを学ぶ視点にして差し出しているようです。誰でもさまざまな事件の当事者になること、けっして特殊ではない人間社会の一面を知る本です。

また今日、「特定秘密法」が公布となり1年以内に施行されるとのこと。あきらめない撤廃の闘い「修正」の闘いはさらに続くはず。

12月14日 今日の予想気温は9-3℃。もう屋間も厳しい寒さ。保温下着上・下、キルト冬物下着上下、タイツの上にソックス2足、上は綿シャツ下着をさらに着て、パジャマにカーディガン。下はタイツの上にパジャマのズボンとソックス1足と2足の間にカイロを入れています。ジャンパーとかダウン、コート、オーバー類は不許可なのでカーディガンの下に着込んでいますが、寒い。それに手袋。単価60円の手袋しか不可で、これがちっとも暖かくないのです。カイロで今はシモヤクはふさげています。ここに入所した2010年、冬はスチームも今のように毎日入らず、ほんの短い朝のみで、カイロも不許可でした。栃木刑でカイロ許可を知り、処遇首席に面談して許可を訴えました。「全国一律」と前に却下されていたので。その時「調査してその栃木刑が使用しているなら、善処します」とのこと。寒さの山を越した2011年2月に入って許可されました。

12月16日 昨日と今日は世田谷のボロ市。小学校のすぐ裏がボロ市通りで、我が「日の出屋」からも100メートルほどの位置なので、学校と「ごはんよ！」と呼ばれる以外は、大好きで隅から隅まで巡っていま

した。皿のたたき売りの口上をしっかりと覚え、学校や家で披露したり、植木市やさまざまな見学が楽しみでした。以来ショッピング好き、とくに安物探しが大好きです。

「泉水国賠通信」受け取りました。泉水さんの様子が少しわかるのが嬉しいです。今、陳述作業にまだ追われていますか。本人は「文章は苦手」と言っていますがそんなことはありません。丁寧で心情や事実描写が率直で、とても心に響く文章を書ける人です。また毛筆はプロ並みで、私たちの80年代の「人民通信」の題字など彼の書です。健斗に連帯！ またMさんの体調はどうでしょうか。前号で眼の手術をしたりして、パソコンも1時間が限界とありましたが、「通信」の作成に尽力しておられます。何も支えられず申し訳ないです。

点呼の後にお便りなども届きました。5歳の子の達者な絵手紙にはびっくりのクリスマスカードです。ハートがいっぱい！「メイメイのママこんには、やさしいところをもちつづけるといいことがあるよ」と。きっとママにいつも言われているのかな、本当に！ありがとうございます！Tさんありがとうございます！“生きんとす冬の時代をあたたかく”。句や短歌心に届く冬リンゴの時評も手がけていますね。Mさんお便りありがとうございます！写真も待っています。八王子では「受刑処遇者」になるため、防寒下着は差し入れ不可です。指定されたものしか買えません。仕事に事業拡大に冬知らずの活動にエールを送ります。

12月17日 八王子は本格的な冬。最高気温は10℃を切り、最低気温は0℃を下回ります。街はクリスマス飾りや新年向けのイルミネーションで華やかな時。みんな多忙ですね。こちらは今日、今年最後のコーラスの時間にクリスマスソングを声を張り上げて歌いました。「まっ赤なお鼻の〜♪」「ジングルベル」「清この夜」の3曲。リズムカルに歌うように！と81歳のソプラノの先生の指導。いつも声を張り上げるチャンスがないので、ここぞとみな大声。寒い部屋がボカボカ。今書きながらも不意に歌いたい気分。それは不許可ですが……。

「選択」や「情報センター」資料ありがとうございます。今日は3歳のNちゃんからクリスマスカード。ありがとうございます！姉5歳に負けじとトライした絵がとってもステキですよ！Tさん毎年の居酒屋ライブ。3・11の募金が寄せられ、毎年届けておられます。写真で雰囲気を実感しています。Kさん体調はどうでしょうか？私を労ってくださいますが、Kさんこそ健康でい

てください。カレンダーありがとうございます！

12月18日 今日は曇り空でもう最高温度7℃と寒い。でも今日は「クリスマス会」。午後13時から15時まで講堂で行われました。クリスマス会を終えて房に戻ると、聖歌隊の方々が講堂に行けない患者のために各棟を讃美歌を歌いつつ静かに巡っていきます。去年も参加しましたが、クリスチャンではない私でも誠実な心のこもった清々しい姿・歌声に心が洗われるようです。

そんな気分ひたっているところで、「診察です！」の呼び出し。主治医も終りの方クリスマス会を見ておられ、「いのち」という歌がいいですねえと言っておられた。「腫瘍マーカー今年最後の結果を伝えます。CEAは4.7です。前回の4.9より下がったので、高めではあるけど心配ないでしょう」とおっしゃいました。

「今後は毎月でなく、2ヶ月に1回程度の腫瘍マーカーチェックで大丈夫でしょう」とのこと。今年の診察は今日のCVポートフラッシュで終了となりました。

ちょうど新聞に「刑務所医師不足・対策へ」という記事。定員332人の8割を切って、常勤の定められている160ヶ所のうち一人も居ないのは31ヶ所もあるとのこと……。記事を読みつつ移転後の治療は望めないなあと思いました。

点呼後お便り届きました。ありがとうございます！Yさん！土曜会12/7の報告、盛りたくさんですね。「福島第一原発肉迫ツアー報告」、「柏崎刈羽原発住民運動の現況報告」、60年代の明大中執委員長だった中澤清正さんを「偲ぶ会」について（小森さんが報告したとのこと。懐かしいなあ。舌鋒鋭く切り込んでた団交の学費斗争の彼が浮かびます）、「北朝鮮訪問報告」、私の「近況」、「福島の実情」など。土曜会のみなさんを思い描きつつ読んでます。新しい若い方も参加され、文化的にも多様に広がっていますね。最後に私へのクリスマスメッセージもうれしく読みました。

本間さんの孫かわいい女の子。私の出所祝いを「祭」でやってくれるとのこと。孫はその時14歳！楽しみです。Nさんはこの頃手紙来ないと思っていたら病気でしたか？和尚ゆつたりびのびがんばれ！Hさん北朝鮮墓参、「よど号」のメンバーたちにも会ったとのこと。「祭」で乾杯楽しみです。Oさん・S君・クラケン・R介、みんなありがとうございます！

デジカメ歌人から大雪のお便り、冬の始まりに「飛行機雲わずかに残り冬の空何もない青に綻びが見ゆ」の一首。カメラは奈良の柳本「五智堂」。奈良の冬を歩かれたとのこと。Uさん、川口先生をご存じだったの

ですね。そんなパワフルな方でしたか。Yさんお便りありがとうございます。Yちゃんにはハッピーバースディと伝えてください。また12月23日に泉水さんのお兄さんの法事、皆様よろしくお伝えください。

12月24日 3連休中は短歌にいそしみ凡作の山をつくりました。Tさんの俳句・短歌はどうでしょう。西の方でもう雪とのこと。都心も雪が降ったという一昨日。

午後は多忙の中、姉の面会。「寒い中体調も悪いし、ムリしなくてもいいからね」と言いつつ来てもらいたいのは姉は妹をよく知っているの。今日は家族の話をして笑い合い、またまた用事を頼んでしまう私です。

点呼後、本もお便りも、感謝。由井さん元気そう！由井さんが「怠け者」なら、ほとんどの人が怠け者になりますよ。そうか……60年代70年代のこと「出版」でなく、「学習」を理解！今年ありがとうございます！Tさんありがとうございます。来年「前期高齢者」とは若い若い。あなたの若さは「自然体で何ごとともかわる」現思研方式だからですよ。おいちゃんと利用者と呼ばれしわれは団塊介護福祉士の一首選外でしたか「さわさわ」以来の作歌の持続に敬服です。デジカメ歌人冬至の便りありがとうございます！「冬霞湖上を埋める灰色の壁を割りながら北より鴨来る」。今年もいつもありがとうございます！あ、今日の夕食はクリスマスイヴの特別食でおいしい（外注の）ローストレッグでした。難点は夕食時間が短いこと。いつも食べきれない……。でもがんばってローストレッグは食べましたよ。

12月25日 今日心地よい快晴のクリスマス。夕食には6枚入りのヤマザキ「シャルロットロール」のケーキ。食べきれないほど！今日はお楽しみのお便り、ちょうどいただいたところ。クラケン、M子さんOさん感謝。いろんな資料も。

12月26日 今日は今年最後の発信日。「切り絵美術」展に出品した「鴨長明」と「円空仏」の見事な作品の写真ありがとうございます。年賀状の「蒼ざめた馬」はまだ未交付です。「60も半ば趣味の切り絵や琵琶、遺跡めぐりと、ひっそり、ゆっくりの「年金生活」と思いきや、原発・TPP・秘密保護法など、福島へ行ったり、集会・デモと、「お上」も我々世代をゆっくりさせてくれませんか」とクラケン。琵琶を弾くのですか。私の父も弾いていたらしいです。

M子さんお便り資料感謝。12・6には、彼日比谷野音に行ったのですね。「国会、霞ヶ関の周りは、抗議・

市民の反対があふれかえっていて、日比谷野音は入れずとのこと。デモの規制のひどさ。7：15くらいから国会と銀座の2コース5列200人の梯団にぶつ切りにされて10時になっても公園から出られない有様で、隊列を離れて歩道を進んで隊列に加わったようです。「去年の明治公園も16万人のデモが出るのに4時間以上。何のための民主主義の下での示威行進か」と。警察国家の強権、今後ますます安倍政権のもと、規制する側の天下になりそう。でもひきつづく人々の参加が、強権を許さない力を育てますからね。四国の「伊方原発再稼働反対全国集会」12/1の様子もよくわかります。8300人も松山に集まったのですね。今年もいつもお便りありがとうございます！資料も有意義に学習役立てています。彼とDっちゃん、K、Nクンにもよろしく！あと10年はがんばるよって言ってね。絵の方も！

今日は房内検査もあり、また休み中の読書の本最大許可7冊も借りました。選択肢はあまりないのですが、『複合汚染』『華僑の今』『般若心経入門』などなど。

12月27日 今日は仕事納め。「教育処遇日」と重なって入浴のみ。運動は室内です。いつのまにか溜め込んでしまう資料など整理の日です。

今日はTさんの孫たちの写真も届きました。Kちゃんも弟ももうこんなに。先日まだ五月の節句の時はあんなに赤ちゃんだったのに！Mさん、今日のSちゃんNちゃんの写真ありがとうございます。「子供」ではなく少女ですね。二人が面会に来てくれたのは2010年ですから「若い少女」の写真を見るだけでうれしいです。今年も励ましや社会の様子も伝えてくださり、またカンパもありがとうございます。

新聞では安倍首相の「靖国参拝」が問題に。中韓ばかりか米欧からも批判。そりゃあそうですよ、世界の側からはナチと同盟していた日本の戦犯を奉ってあることが驚きなのに、首相が参拝とは。ドイツのけじめと比較されて当然という国際秩序に異を示したのですから。日本が戦前をしっかり総括し、教育しないまま今に至っていること。これからは大きくさまざまな局面で問題になりそうな新年になりそう。

12月31日 今日まで年末は快晴続き。でも最高は7-8℃、最低は-4℃くらいと冷え込みます。朝、ひよ鳥が南天桐のまっ赤な実をついばんでいます。

Kさん、今年最後のお便りありがとうございます！送ってくださった冊子は新年に交付、楽しみです。S子さんお便りありがとうございます。多忙の会社や年末年始の準

備いろいろあった今年のことを考えつつ、新年を前向きに切りひらく様子を思いつつお便り読んでいます。

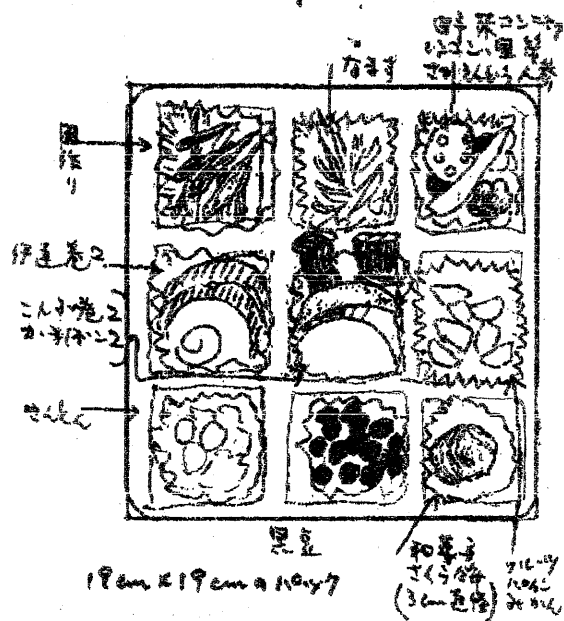
今年もみんなに支えられ、励まされ、精神的にも財政的にも豊かに過ごすことができました。またちょうど届いたアハリー・アラブ病院（パレスチナ・ガザ）を支援する「アイヤーム・アハリー」を読みながら遠くにいるパレスチナや仲間たちと心を通わせ合う年末です。自分の反省や嬉しかったことを、パレスチナの記録やニュースから照り返し、旧友たちに心を開いて語っていると想いがあふれてきます。

今日は年越しそば（カップ麺、無名の茨城産）、正月用の菓子（かっぱえびせん90g1袋とベトナム原産の「クッキークリームオー」14枚入り1袋）も受け取り、紅白NHK放送、行く年来る年を聞きながら年越し。

2014年元旦 明けましておはようございます。去年はありがとうございます。今年もまたどうぞよろしく。

去年は紅白のあと、各地の年越しの様子をベッドで聞きながら、あと20秒で新年というので、起きて窓辺に立ち、窓を開けました。さっと冷気が身体を包みます。新月、南真上につく星、何の星座だろう。歳に入ってから、星座を見つけることはできませんでしたが、新年のカウントダウンに星一つ！よく見えるのは新月のためでしょう。星を見つめながら、メイや遠くに居る友や近くにいる友人家族たち一つでも

2014年おせち料理



幸せな年に！そして変わりゆく世界と日本の変化、よい変化が克ちますように！と祈りつつ、去年から今年へと飛翔しました。

朝、おせちセットが朝食と共に配られました。午前中と午後にも賀状受け取りました。たくさんの方の友人たちの賀状を見つめているだけで、正月を実感し、活力が湧いてきます。ありがとうございます。

星餅に切り餅二つと雑煮用の汁物。
去年今年時刻のあわいに雑座すれば
自ずと湧きぬ平和への願い

1月3日 快晴続きの三日。昨日も年賀状ありがとうございます。今日も嬉しい賀状いただいています。賀状には各々の方の個性が出ていて、とっても楽しいです。全友人に感謝します。多くの友人たちは新年の安倍政権を危惧しつつどうぞ！と意気盛んです。一人一人のお名前をあげて気持ちを伝えたいのですが、書ききれないので失礼します。午年にちなんで、こんな一首もありました。“猛り立ち嘶く馬の心もて東学党の今藤らん”。ありがとうございます！

1月6日 快晴。正月の歌壇にあふるる批判の歌
秘密保護法許さじ吾もまた嘗
今日から「仕事始め」。休み明けの清々しい気分です。

届いた「歌始め」の歌壇には、いくつも秘密保護法を憂い批判する歌が選ばれています。永田和宏さんは10首のうち8首も選んでいます。評で「特定秘密保護法は、まことに解りづらい、わざと解らないように書いているのかと勘ぐりたくなる」と最初の選歌“読むことを拒むがごとく小さき文字されど読まねば秘密保護法”。馬場あき子さんも高野公彦さんも佐々木幸綱さんも原発、秘密法をとりあげています。安倍政権の戦前をモデルとする“日本をとりもどす”に断固として抗し、回天の年としなければ！と改めて「仕事始め」に思います。

今日も年賀状、今日までたくさんいただき、一枚一枚励まされています。さあ！がんばるぞ！と快晴の空を仰ぎつつ！と書き終えて、初診察に呼ばれました。あいさつし、CVポートのフラッシュをしてもらいました。体調いいです。

重信さんは2010年8月16日の刑確定後は通信回数枚数が制限され、(月5通、1通便箋7枚)、おにもに親族と弁護士宛に通信されています。この「独居より」はその通信の「日誌」部分を編集室が抄出したものです。

★読んだ本★

(「独居より」の中の読んだ本への記述を編集室が抜萃したものです)

重信 房子

*松田政男著『風景の死滅 増補新版』(航思社)

先日贈られた『風景の死滅』を読み終えました。日本に居たブント、赤軍派時代の文化状況を思い返しつつ、今回出版された意味を探ろうとしました。この『風景の死滅』初版は1971年で、今回2013年に増補新版として11月に出版されています。

これは「風景論」と当時言われた永山則夫の視座を追体験する映画制作過程を経て論じられている意図をさまざまな角度から示しているものです。当時「60年安保」を経て、アメリカ型の資本主義大量消費者会が“成長神話”として社会を席捲しはじめていた時代です。同時にそれに抗した闘いの時代。その中の永山則夫の「犯罪」。「日本の先進的な青年学生たちは何処にも無い場所としてのユートピアを志向していた非日常的な戦闘の局面から、何処にでもある場所としての(風景)にいかにか抗い、そしてそれをいかに超えようかという日常的な戦闘の局面に自らを移行させつつあると言っようよい!」(「なぜ風景戦争なのか」と著者は風景論でありふれた日常に変革への根源と視座を示し求めようとしていたことがわかります。

日常のやわらかさにつつまれた「風景」としか呼びようのない“成長神話”の日々に、実は屹立している暴力的な強制力・国家の支配がうごめき貫徹している姿こそ国家の本性が晒されていること、それを透視し変革こそ求めていたと言えるでしょう。それゆえに今、この「風景論」を語る意味を新しい文化の創造の一石を投じるものとして求めているのだらうと思いました。

私自身は風景論としてではなく、第三世界の闘いのあり方として記されていた(それも風景論とも言えるが)「私怨の空間」と題する論文に興味を持ちました。著者が1950年代に見た「眼には眼を」というアンドレ・カイヤットの映画を通して、アラブ人民が反植民地斗争や第三世界とは何ぞや?と論じられている文章です。

映画は、妻の治療を私人医師に断られ、ただ黙って妻の死に立ち合わざるをえなかったアラブ人が、その私人医師を砂漠に連れ出すだけの映画だそうです。砂漠は不毛の大地の風景がひたすらに続き、恐怖と絶望の頂点で私人医師は倒れるのです。これはアルジェの闘いと連なり、フランツ・ファノンの暴力に関するテーマと関連することを著者は解明しています。「全力をこめて私怨に身を投じること」をば、ひとりのアラ

ブ人が身をもって実践した時、彼は、それを、過去数世紀にわたって支配されつくした彼ら自身の大地を奪還する行為と結合することによって、フランス人植民者の歴史的連続性を断ち切ってしまったのだ」と。それらはパレスチナの、レバノンの、アルジェリアなどの各地の「個人的経験」、「私怨」が普遍的な解放の闘いの根っこにあることを私も同感しながら読みました。



そしてその中で、「第三世界」とは何か?と問うています。「第一世界・先進資本主義や植民地主義国、第二世界・先進社会主義国と、対立している冷戦構造が世界政治を支配している限りにおいて有効な呼称としての他の世界」という堀田善衛の論理や「一言でいえば第三世界とは“飢えている世界”という志水速雄らの論に批判を加えて、著者は言う。「あえて言い切っておけば、第三世界とは架空の空間なのである。地理区分上の或る実体的な大地が、歴史の真只中に自己を突出させた時、すべての地理区分を超えるべく歴史に敷設されたところの媒介的な架空の概念である。それは言い換えれば(何処にも無い場所)真の主人公——(ファノンの言うところの:重信補)地上の呪われた者たち!——が未だそこを奪還することを得ぬ約束の地なのだ」。うーん、……。

「架空概念」というよりも実体的政治的な概念として、私たちは友人たちと使うことが多かったです。つまり「第三世界」は堀田善衛的過渡期世界概念の通念を持ちつつ、世界的意味においても、地域的[リジョナル]意味においても、また一国的意味においても、参加決定する当事者でありながら、その能力と役割を持ちながらも、それを奪われた人々とその人々の住む空間というふうにとらえていました。著者の言と共通するところもあるかとも思いつつ読みました。(11月22日)

*板坂剛著『三島由紀夫と全共闘の時代』(鹿野社)

『三島由紀夫と全共闘の時代』読みました。

著者は「まえがき」で「人間の心の奥に潜む解決不可能な矛盾、それが『パンドラの箱』の中身であると、ここでは定義しておきたい」と、断った上で、「三島由紀夫と全共闘運動」のパンドラの箱を開いてみよう」とこの一冊に込めています。著者は両者の類似点はまったく同質の「狂熱的自己陶醉」であったが、その方向性、運動論、政治理念は真逆を示していたと捉え、「この一俵背反に美点も欠点も鮮明に示されているにもかかわらず、両者の関係性について本格的に検証されていない」と自らの個人的体験から語りはじめています。

日大芸斗委の苛烈な戦いの渦中に居、68-69年の日大・東大斗争時代のエピソードを語り、フラメンコダンサーとしての現在から、時代を俯瞰的にとらえた「あるフラメンコダンサーの述懐」を記しています。この本の中に「鼎談三島由紀夫 死への希求」が収録され、三島の本を出版した三人(椎根和・鈴木邦男・板坂剛)がさまざまな角度から三島を語っています(かなり雑談風に)。著者は大学以前から三島の本を愛読しており、日大での闘いを経て、同世代の熱烈な一途な情念を三島と全共闘としてくくりやすいのかもしれませんが、私はサークルが文学研究部で、三島を語る友人もいましたが、まったく心に響かなかった……。そして70年11月25日、三島のニュースに衝撃を受けている友人の知識人たちに、むしろ驚きと違和感を感じた方です。ですから著者の日大共闘時代の燃える筆の文章に一番興味がありました。同時代、私も同じ学生運動の末席に居て、御茶ノ水界隈では大学を越えて助け合い、日大経済学部や医科歯科大、専修、東大、中大などよく助け合いましたが、江古田の当時の激烈な闘いは実感できませんでした。それらを読みながら、かつて芸斗委の隊長だった岩淵クンが「闘いも、人間も、もうたくさんだ」と言いながらひたすら花札にのめって

*金平茂紀著『沖縄ワジワジー通信』(七つ森書館)

正月の読書は『沖縄ワジワジー通信』の再読から始めました。

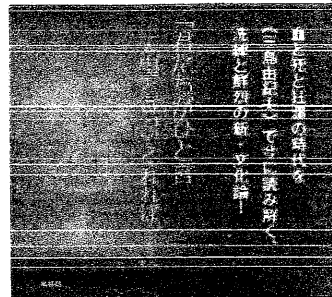
この本は2011年1月から12年12月まで「沖縄タイムス」に連載された「沖縄ワジワジー通信」と08年8月から10年9月までの同紙連載「ニューヨーク発徒然草」を再録し、大田昌秀元知事ら沖縄の人との対談で構成されている本です。

「ワジワジー」は、著者のイライラ、ムラムラする気分に対して「金平さんは、いつもワジワジーしているね」と沖縄の友人に言われて「ワジワジーするさあ」だなあ」と実感し表題にしたとのこと。

いた姿を思い出しました。70年のことですが。(当時日本大学当局が雇った「関東軍」と称するやくざ軍団が、学生をあらゆる暴力で痛めつけ、芸斗委はそれに立ち向かって逆襲勝利したことで名を馳せていた。)本を読み終えて、「はじめに」で、著者が提起したパンドラの箱は「鼎談」で拡散してしまっただけが気がします。だって設定が設定ですもの、それでいいのかもしれませんが、著者は全共闘時代の教訓はいろいろな角度から語っています。「例えば、七〇年には、中核派が法政大学の六角校舎で革マル派の活動家を殺してまったわけけれども、私は、あの事件の時に、日本の新左翼運動はもう駄目だと思ったんです」「正しいと信じた行為の結果、敵対する者が死に至ったとしても気にする必要はないという考え方も、ある意味男らしいとは思ふ。が、こうした精神的な強さの末に、連合赤軍の敗北や革共同両派の不毛な内ゲバがあったような気もするのだが……」などと語っている(男らしくない!「強さ」は「たてまえ」で、「弱さ」の本当の姿が見えなかったと私は思うけれど)。著者の逡巡的記述に、いくつも正論を読み取りました。パンドラの箱の中身は、一度開いたら元に戻せないとしても、まだ箱の底には「希望」が出番を待っています。全共闘時代を次への希望として、さらに語ってほしいと思いました。(12月4日)

著者は「あとがき」で「沖縄から日本がよくみえます。よくというのは、嫌いな部分も好ましい部分も含めて東京あたりにどっぷりつかって生活し、ぼんやり見えているのと違って日本の国の風景がより鮮明に見えるという意味です。(中略)沖縄に対して東京を中心とした『中央』が、どのようにふるまい続けているのかで日本という国の真の姿が見えてくるのです。弱い立場・遠隔の地域に、自分たちにとって、都合の悪いものを押しつけ続けている態度は端的に醜い。米軍基地の74%が沖縄にあるという事実の重み。僕にはあの原子力発電所の存在がダブってみえてきます」と記し

三島由紀夫「全共闘」



ているように、「外側」から「中央」をとらえようとしています。

沖縄によりそいつつ、次の章ではニューヨークから世界の視座で、同じように日本の「常識」「中央」のあり方を問うています。その視座はパレスチナ・アラブから、あるいは欧州から日本を比較対象化してよく見えたものと共通していると感じました。辺境外側に在って見ると、日本は相対化され、多様な世界の文化や価値観の一つであることが鮮明で、「中央」の「へんさ」も浮き彫りになります。「中央」ほどそれが見えないのでしょうか。

著者は沖縄から日本の「沖縄忘却」を告発し、3・11に通底すると看破し、また一方でニューヨークでちょうど現認したオバマ大統領誕生のアメリカの多様性「Yes we can」の変革の熱気に感動し、またグアンタナモのあの収容所取材などホットな臨場感で、私の知らないアメリカを教えてください。

対談では大田元知事の具体的な知事時代、それ以前

日々雑感 - 5 -

2013年11月29日 安倍ヒットラーの電撃作戦

萩尾 遼

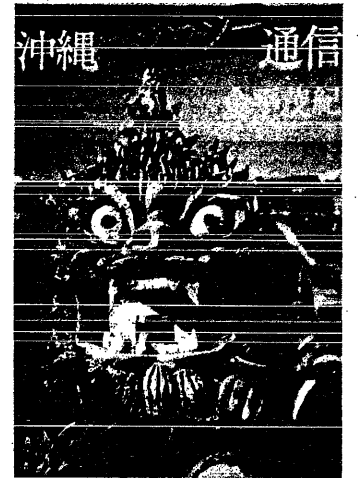
安倍自民党と公明党は秘密保護法案を衆議院で強行採決し、参院でも強行突破しようとしている。安倍の強政策は巧を奏しうに見える。審議が長引けば反対世論が盛り上がり、いくら絶対多数といえども強行できない状況が生まれるかもしれない。1985年のスパイ防止法案は自民党が多数であったにもかかわらず野党及び与党内からも反対が出て廃案になった。このときは公明党も野党として反対した。今、法相となっている谷垣禎一も反対した。今や状況は一変した。公明党はいくつか注文をつけて微調整させたが、連立与党として安倍の政策を強政策を一体となって推進している。谷垣は総裁選出馬を断念させられ、以降法相としてせつせと死刑を執行し続け、秘密保護法にも法執行責任者としての立場を表明するばかりだ。

みんなの党も維新も安倍にすりよってコバンザメぶりを遺憾なく発揮した。もともと、維新の石原慎太郎などは秘密保護法には大賛成なのだろう。大昔から自民党の右派青年将校として旗を振っていたのだから。

特定秘密保護法という名の情報隠蔽法案は、政府の権限を飛躍的に増大させ、警察・検察など弾圧機構を肥大化させる。時の政府が何をやっても「秘密だ」といえば誰も追及できなくなる。国会でさえも秘密事項を追求することはできないばかりか、かつてのように爆弾発言・暴露をすれば逮捕される。裁判に訴えたと

の日本・米政府のあり様、沖縄を犠牲にして来、今も犠牲にし続ける「中央」そして日本本土の私たちに、沖縄のあきらめない闘いの鋭さを改めて教えています。

この本は、一人のジャーナリストの沖縄ばかりか世界から日本を見つめる政治だけではなく生活の本音で語られています。沖縄の今を、今年も「辺野古埋め立て」のみならず犠牲を直視する意味でも、この本を読むのは価値があります。(1月4日)



ころで、秘密だと開示を拒めばそれで終わり。三権分立は、前から進行していたとはいえ、行政が突出した権力を持ち、立法・司法ははるか目下の存在になる。

秘密保護法の次には、共謀罪が出てくることは間違いないと言われている。単に話し合っただけで実行しなかつても共謀罪として罪に問われる。自民党は前からこの法案を狙っていたが、秘密保護法とセットになれば、戦後憲法体制は根底から覆される。現在進行している事態は、事実上のクーデターである。麻生が言っていたように、知らぬうちにワイマール憲法(日本国憲法)がナチス憲法(自民党憲法草案)に変わっていたという事を今進めているのである。ナチス憲法などというものは歴史には存在しないが、ヒットラーは国会議事堂放火事件などでつち上げなどを通じ国会で共産党社民党など反対派を弾圧・排除し、授權法で全権を掌握し、独裁体制を築いた。そこからユダヤ人絶滅政策と第2次世界大戦へと突き進む。

おりしも、釣魚諸島(尖閣列島)をめぐる、防衛識別圏などで日中が一触即発の危機が進行している。これは安倍にとってはきわめて都合がいい。軍事衝突の危機が高まれば、秘密保護法も当然必要、共謀罪でも何でも非国民をあぶりだせ、という排外主義が高められるということだ。今マスコミでは週刊誌やテレビなどで、中国嫌い韓国嫌いかのキャンペーンが意識

的にはられている。日中国交回復時の日中友好ムードの高まりと様変わりして、中国が嫌いという人が70%以上いるというような世論調査まで発表されている。明らかに世論誘導が巧妙に行なわれている。中国との軍事衝突もやむなし、やっつけてしまえというような軽薄な世論が作りあげられようとしている。その結果が何をもちたすかが果たして本当にわかっているのだろうか？

安倍政権は日中の軍事衝突を回避するための努力を一切していないばかりか、アメリカを巻き込もうとしたり、ロシアやベトナム・フィリピン等を引き込んで中国包囲網を作ろうと躍起だが、今のところこの誘いに積極的に乗ろうとする国はない。いずれも中国との正面からの対決は望んではいないように思える。天木直人が書いているように、安倍は日中首脳会談を呼びかけるなどの危機回避策をとろうという気さえないようだ。安倍の危険なギャンブルをやめさせなければ、日本は一気に戦時体制に突き進む可能性さえある。だが、その時はアベノミクスどころではなく、日本の国債は暴落し、日本発の恐慌さえ引き起こしかねない。中国市場から日本が完全に追い出されてしまえば、中国にとっても痛いだろうが、日本経済は困りしな

い打撃をこうむるだろう。その時、安倍はまだ政権を保てるだろうか？ パトロンを経済界も安倍を見放して首をすげ替えようとするかもしれない。

秘密保護法が戦前の日本のような暗い時代、レコードを聞いたり、話し合ったりただで特高や憲兵に引っ張られ、拷問されるというような時代に戻るのではないか、戦争への道ではないかと懸念して反対する声は高まっている。丹羽宇一郎のような財界人（前中国大使）でさえ、反対の声を上げている。民衆の中にも安倍の恐ろしさがようやく実感として広がりかけているように思える。衆院選・参院選で自民党は議席の上では過半数を確保して圧勝したが、実際には全有権者の5分の1の得票しか得ていないのだ。今の選挙制度では次の選挙でも勝利できるということは必ずしも約束されていない。ただ、民主党が政権運営に失敗して四分五裂となって沈没し、対抗できる野党がないだけなのだ。

ヒットラーの電撃作戦は結局、ナチスドイツの敗北とヒットラーの自決に終わった。安倍は果たしてヒットラーを超えられるだろうか？ 安倍にはヒットラーやムッソリーニ、東条英機の未来が待ち受けている。

においては、PLOが、アラブ諸国政府と共に解決にあたりました。「ハーグ事件」に、エジプト大使が介入してくるのも、これまでのあり方を踏襲したものです。こうした当時のパレスチナの状況を反映した闘いとして、「ハーグ事件」がありました。

同時に又、ライラの発言に耳を傾けて下さい。「私にとっては、日本の裁判所が、パレスチナの闘争における一つの行為を訴追し裁いていることに驚いています。何人にも、国際法の観点から国際的に見て、合法的なパレスチナの闘争を裁く権利はないと思います。国連憲章の一項に占領下にある民は、それに立ち向かう、抵抗する、そして時によっては武器を行使する権利を有すると述べています。PLOを唯一の合法的なパレスチナの代表と認め承認したすべての国にあっては、闘争に関するいかなる行為も公訴し、裁判で裁く権利はないと私は考えます。そして日本もPLOを承認しています。私自身は多数の作戦を実行いたしました。私自身は、いかなる国からも逮捕されるという経験をしておりません。私以外の、パレスチナ人誰でも言えることです。」と、「ハーグ事件」の裁判そのものに意見を述べています（28回51～52頁）。そして、フランスや他の国では訴追せず、寛容な姿勢をみせている点にも触れています。パレスチナを代表して訴えたライラ・ハリッドさんの声を記憶にとどめてほしいと私は訴えます。

また、作戦上の権限は、キャップが部隊を選任することはできる点も丸岡さんは述べています（丸岡証言、重信公判24回77頁）。

以上のように、アブ・ハニ部局においては、当然のことながら作戦実行にいつでも参加できる志願者のリストがあり、必要に応じて作戦計画が立てられ、計画にもとづいた人選が行なわれます。任務を担う用意があるかどうかたずねられ、イエスならば任務に配置され、ノーならば配置されないし、その時点では、いかなる任務につくのか内容は明らかにされません（ライラ証言、重信公判28回29頁）。こうしたあり方は、当時の拷問などの厳しい条件の中で、作戦を実現する一人一任としてあり（丸岡証言、重信公判24回2～12頁）、やむを得ない面もありながら、日本人ボランティアから見ると、将棋のコマ（丸岡証言、重信公判24回29頁、W公判38回26頁）として、批判すべき状態になっていたことは否めないのです。

また、ライラさんは、ハーグ作戦について、「アブ・ハニが計画を承認しました。だからと言って、アブ・ハニが計画のすべてに携わったことを意味していない」（ライラ証言、重信公判28回）と述べています。

当時のアウトサイドワークの状況を踏まえれば、和光証言とあわせて、これはPFLPの指揮下の作戦であったことは、明らかです。

アラブ物語(25)

「パリ事件」ハーグ闘争から日本赤軍結成へ—74年(3)

重信 房子

政治的チャンネル、外交的チャンネルを使うもの、あるいは、各種闘争によって行うものがあります。

(中略) 私自身もブリティッシュ・エアがハイジャックされ、それとの交渉として釈放された経験をもつ者であります。(中略) ハーグ行動もこうした獄中にある私たちの友人を釈放させる一つの手段として実行されたものです(ライラ証言、重信公判28回)。

当時、パレスチナ人やボランティアが逮捕拘留された場合、PFLPあるいはPLOを介し、あるいはアラブ諸国の仲介を通して釈放されることが可能な時代です。当時は、作戦においてさえ、アラブ諸国政府大使が介入し、穏便に事態の收拾を図るパターンが定着していました。これは、西欧諸国の要請でもありますが、また、アラブ諸国政府自身がパレスチナの闘いにプラスマイナスの影響を受けるために、国益にそって、ことを運ばせるために介入してくるのです。シンガポール・クウェート作戦に

以下は、第一審被告人の「最終意見陳述要旨2005・10・31」の44頁「ハーグ事件はPFLPの指揮の下で行われた作戦です」～47頁6行までです。

1「ハーグ事件」はPFLPの指揮の下で闘われた作戦です

(1)「ハーグ事件」当時の政治環境

ライラ・ハリッドさんはハーグ闘争はPFLPの作戦であると証言したうえで次のように述べました。

「ハーグ行動は、当時私たちの下でボランティアとしてかかわっていた日本人がフランスの刑務所に収監されていたその人を釈放させるために行なわれました。私たちのポリシーとしては、いかなる国の刑務所に収監されている我々の同志、あるいは私たちのボランティアは、あらゆる手段を通じて釈放、自由の身にさせるということを唱えておりました。このあらゆる手段ということですが、時には、

(2) 当時のPFLPの作戦のあり方

PFLPのポリシーとは、まず、釈放交渉を行ない、それが平和的に実現できなかった場合でも、非平和的手段で行なってきた歴史は、ライラ証言の中でも、また、ライラさんの本(弁、11号証)でも知られています。さらに、こうした分野をPFLPのアウトサイドワークが担っており、その局の責任者は、アブ・ハニ(ハダッド博士) だったのです(ライラ証言、重信公判27回9頁、丸岡証言、重信公判24回2頁)。

アブ・ハニは、どのように作戦を企画するのか？という点について、政治的意義を踏まえて企画し、すでに志願している人々のリストにそって人選し、そして作戦指示することを、ライラさんは述べています。それは、党と党の関係であれ、ボランティア個人であれ、相手方とは、作戦の具体的な内容について討議することはまったくない点を明確にしています。作戦には、作戦参加者以外口を出せるものではないのです(ライラ証言、重信公判28回22

(3) 日本人はペイルートでどのようにY逮捕を知ったのか

8月7日、Jさんからの電報によって、Yが逮捕されたかもしれないという事態に直面しました。その情報をもって私はアブ・アリのところに行きました。もし、逮捕されたらどんな被害かと当然危機感を持ちました。ただし、当時は、アブ・ハニ部局でも、PFLPでも、旅行などスケジュールやルートは、事前に当事者以外に知らされないために、第一報当時はペイルートからパリ行きが直行ルートであったこともわからないし、ましてや出発したであろう頃から、すでに10日以上過ぎていて、空港で捕まったなどとは考えられません。PFLPの側は、すでに事態を把握していた様子で、私に計画どおりにリビアに行くことを指示しました。当時そうした事件は、政治交渉による解決もPLOやPFLPが行なってきたのです。アブ・アリ自身がそう言ってくれたことは、大きな安心となりました。そのことを、日本人に伝え、私はリビアに出発しました。

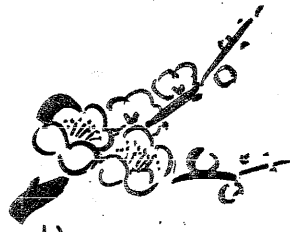
(4) Wの作戦志願

その当時、Wは、Y逮捕に関する情報をフォローしつづけたことは、本人も述べています(W公判39回59頁など)。被害の拡大を予測し、信用丸つぶれになる事態に対処すべく、「失地回復」を求めて作戦志願をしたと述べています。また、あてにならない私には何ら頼む気もなく旅行に出たのを独自に行動していったこと、他に相談すべき人もいなかったことを述べています(W公判35回58頁、63～64頁;W公判39回63～64頁)。Wは、かねてよりの知り合いで、共同した経験もあり、8月上旬のペイルートでのアシエングループの人の逮捕の件で、当時やはり失地回復を求めていたミシェルに相談しています(W公判35回58～61頁)。PFLP側から見れば、リストにあるWが、PFLPに作戦志願したという位置になります。

その結果、Wは、数日待たされた後に、指示を受けてウィーンに行き、PFLPの指揮下の作戦として、在欧のPFLPメンバージャンの指揮に従うよう命じられたわけです。ここに至って、ミシェルをはじめとするアブ・ハニ部局のヨーロッパ部隊の「失地回復の作戦」に組み込まれたのです(W公判36回1頁、6～7頁など)。

(5) 作戦部隊の動き

PFLPの作戦の一部として、占拠の実行任務がWら日本人に与えられました。丸岡証言によると、アブ・ハニとは1974年8月12日～14日から遅くとも20日までの間に2回バグダッドで会い、Yのパリでの逮捕を聞かされています。そして、8月中のY釈放交渉がうまくいかなかったら、Y解放をジャンをチーフ、Wキャップでやるという話を聞かされています(丸岡証言、重信公判24回60頁)。また一方、Wはウィーン到着後、ジャンらの指示に



従って、ジュネーブ、チューリッヒで待機し、その後チューリッヒでアムステルダムに行くよう指示されます。そして、「作戦部隊はとにかく人質を押さえた上で、対峙していると。交渉は外部にいるジャンが担当するという話を提起されました」(W公判36回25頁)。作戦部隊を当初N、Tさんを予定し、B、Hさんを予備要員としたこと、その合流に至る具体的な事実は、弁論で示されたとおりです。そこには、検察論告が触れたがらない事実が、すべて網羅されており。

その後9月12日、Wはジャンから武器を受け取りましたが、2丁しか銃が用意できなかったことも仕方がないと考えています。後に3丁用意されていたものが、2丁しか渡されなかったと作戦後のペイルートで知って、Wが腹を立てたという事実はあったのですが(W公判36回43頁)、当時は、怒る筋合いのことではありません。

9月13日作戦当日、Wはアムステルダムで在欧のPFLPメンバーと朝9時に会い、ここではじめて攻撃目標を告げられました。ただちにジャンとハーグに移動し、フランス大使館を下見し、突入は3時と指示されます。「占拠だけしているように」と再度言われ、突入後の当局への要求書を渡されました。Wはすぐとって返して、日本人と準備を整えて指示された時間より遅れて4時頃作戦を開始しました。(つづく)

後書

かつて九段の靖国神社は内務省・陸軍省・海軍省に共同管理され、全国主要都市に護国神社という末社を展開する日本帝国主義の英霊の本社であった。以前、神社前を通る時、欠礼したとして通報・逮捕され、昭和17年3月、獄中自殺した函館のキリスト者のノンフィクションを読んだことがある(坂本幸四郎著「涙の谷を過ぎるとも-小山宗祐牧師補の獄中自殺」)。非国民として神社に追いつめられたわけである。昭和30年代に入って国は教科書を国交管理し日本の侵略戦争を教えないようにした。そういえば安倍首相は昭和29年の生れ、「参拝は平和を祈るため」と言っているが靖国神社と平和は相反する。誰か彼に教えてやってくれ。いや、彼は靖国参拝で近隣国を挑発し、今や多数を占める歴史に疎い日本国民の近隣国への反発を引き出し、この「反発」に乗って集団的自衛権から改憲へと進める大魂胆? 我らはエライ首相を持ったものだ。Q

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋 2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 121 号

- ①4P右上から12行目 去年は「安保入り」を辞退し
→去年は「安保理入り」を辞退し
- ②5P(11/7)上から7行～8行目 バイオリンをピアノのBG
→バイオリンとピアノのBG
- ③9P(12/1)左下から5行目 リーダー・マクマド→リーダー・アフマド
- ④11P(12/14)下から8行目 シモヤケはふさげています
→シモヤケはふせげています
- ⑤15P(読んだ本)左上から10行目 ～大量消費者会→大量消費社会
- ⑥20P左上から7行～8行目 旅行に出たのを独自に
→出たのをこれ幸いと独自に